

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



GENの恒例行事、自然と親しむ会 無煙炭化器を使った炭焼きはお天気に恵まれ、炭焼きと焼き芋を楽しんだ。

Contents

- 2021年 年頭のごあいさつ P 2
- 年末寄付のご報告 P 2
- GEN 自然と親しむ会・オンライン講演会参加者募集 P 3
- 黄土高原紀行 P 6
- 大同緑化協力 25年の軌跡 P 7

2021.1
197

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



2021 年 年頭のごあいさつ

緑の地球ネットワーク 代表 前中 久行



自然と親しむ会「野の道」シリーズのときに京都円山公園垂れ桜前で

2021 年 通例とは異なる状況での年明けです（おめでとうとは言にくいので）。祈りを込めて中国風に、新年快乐！ 身体健康！ 恭喜发财（お金にご縁がありますように）！

一昨年年末頃からの新型コロナの拡大とそれに関連する様々な影響が顕在化しました。新型コロナは、小波、中波を繰り返しながらさらに大波がやってきそうな状況です。新型コロナを通して世界各地の様相があぶり出されました。おそらく、将来振り返った時にあの時世界が変わったという画期なのでしょう。

ご支援をいただいた会員の皆様、企業、団体、広く関心をもっていただいた方々に大変感謝しております。皆さま健康と生活をまもるためにそれぞれに大変ご苦心ご苦労されていることと思います。その中で継続してご支援と活動に参加いただくことに重ねて感謝いたします。感染症とは本来は無関係な一 NPO である GEN にとって新型コロナに対してできることは限られています。自衛することと共助すること、それに収束を祈ることしかできません。政府や自治体には健康と生活を守る実効性のある施策の実行を求めます。

GEN の目的である「地球環境のための国境を越えた民衆の協力」は影響をうけて昨年は活動を変更せざるを得ま

せんでした。春、夏のツアーは停止、事務局メンバーや専門家の現地訪問もできませんでした。しかし、ネットの発達によりカウンターパートや現地の緑化担当者との連絡は通常どおり維持できています。大同での累計感染者数は 12 名、張家口市蔚県では感染者なしで現地は落ち着いています。陽春鎮豊富村でのアンズ、東師家窑村でのアブラマツは今年度予定分が村の人の手ですでに植え終わっています。現地は典型的な黄土高原の容貌で「黄土高原の緑化」イメージにピッタリです。

植栽樹種の多様化をめざす蔚県壺流河国家湿地公园の樹木見本園「蔚県郷土樹木園」は、3 年間で樹木 108 種、2154 本を植えて目標を達成しました。

現地の努力もあって植樹の実行面では影響をうけませんでした。苗は植えると時間と共に大きくなり、早く植えるほど効果を先取りすることができます。GEN が活動を始めて 30 年弱、うまく行った場所では風景が一変して環境面経済面で多くの効果が実現していま

す。このため今後は前倒しで緑化を進めたいと考えています。

国内活動も大きく影響をうけました。野外での活動の多くが取りやめになってしまいました。総会は会員皆さまの協力のもと書面評決や zoom を活用して活動方針や予算を承認いただきました。世話人会や運営懇談会も zoom でおこなっています。地球上のどこからでも双方向で参加できることなど長所もあります。今後、講演会、学習会、観察会などでも活用したいと思います。事務局メンバーが中国訪問できるようにすれば、緑化現地からの緑化成果確認とか自然観察、現地料理紹介などバーチャルな zoom ツアーも考えようと思います。もちろん状況をみながらリアルな現地ツアーの再開を目指します。

講演会、学習会、支部活動、運営懇談会、総会、自然と親しむ会など様々な形での参加とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。繰り返しになりますが、新年快乐！ 身体健康！ 恭喜发财！

年末寄付のご報告

ご協力ありがとうございます
おかげさまで 65 件、2,617,057 円のご寄付が集まりました

いつも GEN を応援していただきありがとうございます。

11 月の GEN 会報で年末寄付のお願いを呼びかけたところ、たくさんのご寄付が寄せられましたのでご報告いたします。

11 月 5 日～12 月 30 日までの期間に 2,617,057 円、65 件のご寄付をいただきました。みなさまのご協力ありがとうございました。

前年同月比の寄付額は 699,057 円、58 件でしたので、金額、件数ともに増加しました。この期間に大口のご寄付を

複数いただいたこともあり、金額が大きく増加しました。コロナの拡大が収まらないなか、GEN の活動の継続のためにたくさんの方が応援してくださることが大きな励みとなっています。

しかしながら厳しい状況が続いていることに変わりはなく、12 月時点での寄付予算の達成率は目標の 56.7% となっています。また、今年度はスタディツアーが中止になり、事業収入が見込めないため、厳しい財政状況が続いています。今後ともご協力をお願いいたします。

参加者募集

GEN 自然と親しむ会 大泉緑地で 冬のバードウォッチング

大泉緑地には約 200 種、32 万本の樹木があり、3 つの池と水流、丘陵など鳥たちの絶好の住処、休憩地となっています。水辺の鳥と森の鳥、両方が観察できる大泉緑地で冬のバードウォッチングを楽しみましょう。

○日時：2 月 6 日（土）10 時～14 時ごろ

○場所：大泉緑地（堺市北区金岡町 128）

○案内：高田直俊さん（大阪市立大

学名誉教授）

○集合：10 時に大阪メトロ御堂筋線「新金岡」駅 2 番出口

○参加費：700 円（保険料を含む）

○定員：12 名

○持ち物：歩きやすい服装と靴、弁当、飲み物、敷物、あれば双眼鏡、野鳥図鑑

○申込み：2 月 3 日（水）までに氏名、生年月日、連絡先を GEN までご連絡ください。

※小雨決行

※状況により変更・中止の可能性があります。



参加者募集

オンライン講演会 中国の植物文化と園芸技術

久しぶりに GEN で講演会を企画しました。今回は中国科学院の博士課程にて宋代の園芸史を研究されたご経験のある久保輝幸さんを講師にお迎えします。中国の植物文化についてのあれこれを、歴史をひも解きながら語っていただきます。オンラインでの開催ですので国内はもちろん、海外からのご参加も可能ですので、ぜひお気軽にご参加ください。

○日時：2 月 14 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分ごろ

○手段：ウェブ会議システム Zoom

○講師：久保輝幸さん（GEN 会員、浙江工商大学東亜研究院）

○参加費：無料

○お申込み・問合せ：2 月 10 日（水）までに表題を「オンライン講演会参加希望」として GEN まで（gen@gen-tree.org）メールをお送りください。GEN のホームページのイベント欄 <https://gen-tree.org/event/index.html> からもお申込みいただけます。

後日、GEN より Zoom のミーティング ID とパスワードをお知らせします。

・オンライン講演会参加の流れ

Zoom アプリをインストールする

※注意：必ず zoom.us のサイトからダウンロードしてください。検索サイトで「zoom ダウンロード」で検索すると上位に出てきます。

・招待メールを受け取る

・当日招待メールに記載されている URL にアクセス、もしくはミーティング ID とパスワードを入力して参加する。

春のスタディツアー 実施しません

コロナの感染拡大が長期化し、日本から中国への渡航は難しい状況が続いているため、春のスタディツアーの派遣は断念します。

現地のようなすがどうなっているか気にされている方も多くいらっしゃると思いますが、顔の見える協力を目指して毎回ツアーを派遣している GEN にとって続けてのツアーの中止は大変残念です。一日も早く事態が収束し、ツアーが再開できることを祈るばかりです。

2020 年度 GEN 運営懇談会を おこないました

12 月 12 日（土）、2020 年の運営懇談会をおこないました。毎年大阪と東京の 2 か所の会場で開催していましたが、今年はオンラインで 1 回のみの開催となりました。

21 名が参加し、そのうち 3 名が海外からの参加でした。

今回の運営懇談会では、北京在住の参加者から現在のコロナの状況の報告や、「コロナ下でできること、コロナ後にやりたいこと」をテーマにしたグループディスカッションをおこないました。ディスカッションでは、現地の訪問がかなわないなかで、オンライン上での現地との繋がりを期待する声が多く寄せられました。また、オンラインでのツアー同窓会、YouTube を使った GEN の活動の動画配信など、コロナ後を見据えたオンラインの可能性を探るさまざまなアイデアや意見が寄せられました。



好天に恵まれ楽しんだ炭焼き

川島 和義 (GEN 副代表)

11月8日(日)、GEN 自然と親しむ会 無煙炭化器を使った炭焼きをおこないました。11名が参加しました。

新型コロナによる COVID-19 が収まらない中、屋外行事なら感染リスクは高くないだろうということで自然と親しむ会は継続されている。マスク着用と手指のアルコール消毒などの予防にも十分配慮されている。

11月8日10時過ぎ、JR 武田尾駅に集まって武庫川沿いに右岸に渡り下流に向かう。この川原が今回の炭焼きの場所だ。最近では公園などでのバーベキューも禁止されるなどで火を使える適当な所がなく、この数年はここが定例になっている。

先に S さん、T さん、M さんの3人が資材を自動車で運んで準備してくれていた。昔「化学科」の学生だったということからか、私に炭焼きの説明をしてくれと言われて次のような話を簡単にした(ここには整理・補足して記す)。

植物は、水(H₂O)と大気中の二酸化

炭素(CO₂)と太陽光エネルギーを合成して炭水化物(CH₂O)を放り出す。動物は、その逆の反応で糖類(炭水化物)に酸素を反応させ水と二酸化炭素に分解して得られるエネルギーを利用して。木材を形作っているセルロースも炭水化物で、燃やせば水と二酸化炭素になり、燃焼熱が発生する。この燃焼のときに、酸素が不足する状態になると、二酸化炭素になれない炭素が固体で残る。これが炭である。

無煙炭化器は、下部がすばまった円形の筒で、地面に設置して中に木材を入れ燃焼させるものだ。火炎は上部に上るが、下部は酸素不足で加熱されるので、炭ができる。うまく燃焼制御される形態なので、ほとんど煙は出ない。炭には小さな空隙があり微生物の棲家になれるので畑などの

土壌改良に利用され、GEN が中国に持ち込み、地球環境林センターで利用した。大気中二酸化炭素の増加抑制効果も期待される。

昼食を挟んで準備された木材を3回に分けて炭にした。熱を利用して持参した芋を焼いて食べた。

食べきれなかった芋とできた炭を分配して解散したが、資材運搬の車両のバッテリーがあがるというアクシデントがあり、前述の3人がJAF待ちになった。その他には大過なし。近くに「桜の園」があり、廃線跡のトンネルを越えて見学もできた。参加者10名と子供1名。



あの人 この人

「あの人この人」では、個性豊かな GEN 会員のあれこれをご紹介します。

このコーナーでご自身を紹介してくださる GEN 会員を募集しています。ご自身が続けている活動のアピールなどでも結構です。「我こそは」というかたは GEN までご連絡ください。

大林 由美子さん (大阪府)

わたしの GEN との出会いは、忘れもしない阪神大震災の当日、朝日新聞の朝刊の家庭面に載った記事でした。

わたしは当時短大生で、GEN に問い合わせの電話をすると高見さんが出られて、「あけといってくださいね」と



言われてその場は終わりました。

1995年の3月のツアーが初参加で初海外でした。両親からお金を出してあげるから大学のヨーロッパ一周卒業旅行か、GEN の植林ツアーか選ぶように言われ、私は GEN の植林ツアーを選

びました。理由は三国志など中国の歴史小説が好きで、中国で植林で面白そうと思ったからです。この選択は正しかったと思いますし、その後の人生を左右したと思います。

2回目は2004年の春のツアーでした。1995年にはなかった霊丘自然植物園とカササギの森にも行きました。また、以前に植林して成長している木も見に行きました。

1回目のツアーでは、恒山の登山では山に木がないことに驚きました。

2回目では、あんずの植林で小学校を立てた上北泉村の獣医師さんの家にホームステイしたことも良い思い出です。また砂嵐の日に万人坑に行くことができたことも学びになりました。

GEN のすごいところは現地の人びとが中心であり、現地の人びととの信頼関係で成り立っているところでしょう。そのため、村の(5ページにつづく)



いままでする GEN への協力

■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費(年額)

一般会費	12,000 円
家族会費(同居の家族2人目から)	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員(中学生以下)	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円
※会費は会報購読料を含んでいます。	

■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただけませんか。年間購読料 2,000 円。

■緑化資金、運営寄付もともむ

金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

*緑化資金の20%は事務管理費になり

ます。

■絵はがき『黄土高原の花』

8枚組・300 円(送料別途。5セット以上送料無料)

■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。古切手は周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

* * * * *

【GEN への寄付は税制上の

優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪市に認

定された認定 NPO 法人です(期限は 2024 年 4 月 8 日まで)。

個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO に寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪市民のかたには個人住民税の控除もあります。くわしくは GEN までご連絡ください。

生き残ったマツの子どもたちを育てよう！ ゆりりん愛護会が

クラウドファンディングに挑戦中

宮城県名取市のゆりりん愛護会(代表 大橋信彦さん)は、東日本大震災の津波被害を受けた海岸林再生の活動を続けており、GEN も協力しています。

震災から 10 年目の今年 5 月、ゆりりん愛護会は、復興記念植樹祭を計画しています。その費用を集めるため、「生き残ったマツの子どもたちを育てよう！」というタイトルで、現在クラウドファンディングの寄付を募っています。

期間が 1 月 29 日(金)までと目前

に迫っていますので、ご協力いただける方はお早めに以下のサイトまでアクセスください。

<https://readyfor.jp/projects/araha-ma2021>



ゆりりん愛護会の植樹祭に GEN も参加

黄土高原紀行 <2>

一、雲岡石窟（1）

2002年8月19日（月）早朝、大同駅着。

このツアーには北京からの全コースにつくツアーガイド（30歳くらいの女性）が同行しているが、車で現地ガイド（40代男性）の出迎えをうける。

二日酔い気味のうえ少し寝不足だが、冷涼な空気にシャキッとする。

専用の大型バスにて雲岡賓館へ。

ここには今夜宿泊するため、まず部屋割りがあり、各自荷物を運び込む。ところが、ある人の旅行カバンが南京錠方式だったのだが、キーが見つからず、開けられない。たまたま私も南京錠だったので、試みにそのキーでカチャカチャやったところ、うまく解錠できた。先方は感謝しつつ、冗談めかして私の前歴を問う。これには、笑って答えず。中学校を出たら父が従兄のところで修業させて竹細工の職人にしようとしたほどだから、人より手先は器用な方だが……。

それはともかく、朝食時には日本から持参の梅干を1個。職場の同僚がモンゴルを旅行して下痢に苦しんだとき、正露丸などより効き目があったという。これより1日3回、予防薬として1個ずつ食することになる。

9時、バスでホテルを発って、雲岡石窟へ。

市内から西へ約15キロ、40分ほど。途中、石炭を満載した大型ダンプとすれ違う。いうまでもなく大同は、中国随一の石炭の産地だ。左手に武州河（現・十里河）を見つっ少し行くと、右側が武州山という丘陵。北魏（398～534）のとき武州塞といったのは、ここが西方からの侵入を防ぐ塞^{とりで}だったからで、はるか後の明代（1368～1644）の砦がいまも残る。

この丘陵の南斜面を垂直に20メートルほどカットして、そこに東西1キロにわたり53の石窟がうがたれている。そして石窟の内外に、大は10メートルから小は2センチにいたる、総計5万1170の仏像が彫られているという。

谷口 義介（GEN 会員）

じつは、今回訪中の2002年8月より以前、何度か大同に来るたびに雲岡には立寄っている。

最初は1998年8月、日本沙漠緑化実践協会の滋賀隊に加わって、内モンゴル自治区のクブチ砂漠で植林活動をしての帰りがけ、見学した。次の年からは、黄土高原の緑化を目指す大阪の

NPO 緑の地球ネットワーク（以下、GEN と略称）に入会。99年7月、2000年7月、01年3月、02年3月と、大同周辺のワーキング・ツアーには必ず折り込まれるので、



大同と雲岡石窟（原報告 Fig.16-1）

参加者募集

GEN 関東 brunch オンライン月例会

GEN 関東 brunch オンライン月例会は毎月第4土曜日におこなっています。ウェブ会議システム Zoom を利用するので、どこからでも、どなたでもご参加いただけます。

月例会の案内は関東 brunch のメーリングリストから発信されますので、興味をお持ちの方はメーリングリストへの登録をお願いいたします。登録希望の方は上田信さん (ueda@rikkyo.ac.jp) までご連絡ください。

【1 月度月例会】

○日時：1月23日（土）15時～17時ごろ

○タイトル：SDGs（持続可能な開発目標）

関東 brunch のメンバーは SDGs に関わっている方が多くいます。それぞ

その都度参観した。

つまり、02年には春と夏の2回、雲岡を訪れたことになる。

そして、これよりちょうど100年まえの1902年、清代以来廃寺同然となっていた雲岡石窟は、建築史家・伊東忠太（1867～1954）により発見、紹介されている。

しかし、その発見は、まったくの「偶然」にして「案外」なことだったらしい。

れの取組みを紹介しあいつつ、GEN との接点を探ります。

【2 月度月例会】

○日時：2月27日（土）15時～

○話題提供：村松弘一さん（淑徳大学）

○タイトル：歴史のなかの蔚県（古代編）

中国古代史がご専門の村松さんに GEN の活動地張家口市蔚県の古代史についてお話しいたします。

【3 月度月例会】

○日時：3月27日（土）15時～

○話題提供：上田信さん（立教大学文学部教授）

○タイトル：歴史の中の蔚県（中世・近世編）

2月にひきつづき、蔚県の歴史の中世・近世についてお話しいたします。

大同緑化協力 25 年の軌跡

東京山手線内の 96%、大阪環状線内の 2 面分

GEN の山西省大同市での 25 年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で 23 回目です。（高見邦雄）

緑の地球ネットワークの活動がスタートしたのは1992年1月でした。その年の6月にリオデジャネイロで最初の地球サミットが開催されることになっており、最大の課題が気象変動・地球温暖化への対応でした。トランプ大統領のように表だって反対する有力者はいなかったと思いますが、工業先進国と途上国とが自分たちの負担を避けようとして、効果的な合意に至りそうにありませんでした。

そのようななかで私たちは「環境に国境はない」「地球環境のための国境を越えた民衆の協力」をかねてスタートしました。しかし、組織もなければ、資金もない状態でしたので、無謀だったといっているでしょう。

下調べのために訪問した北京では、どこの部署を訪ねても「予算はどれほどですか？」と最初にきかれ、答えに窮したものです。

親しい友人から「それなら地方に行きなさい。地方に行けば歓迎されます」とアドバイスを受け、その橋渡しを中華全国青年連合会に求めたところ、紹介されたのが大同市渾源县だったので。

表題はどういう意味でしょう？ 私たちが地元と協力して黄土高原に植えた面積と本数は、合計 6048ha、1906 万



ツアーで現地の人と協力して植樹に汗を流す

本（大同 5923ha、1887.5 万本、蔚県 125.1ha、18.5 万本）になります。それをわかりやすく伝えることはできないかと考えて、思いついたのがこの数字です。東京山手線の内側の面積に迫り、大阪環状線のそれの2面分になります。

もちろんそのすべてが育っているわけではありませんが、初期に植えたマツは 10m 近くに育ち、アンズは収入をもたらして農村の生活を安定させています。これからも育ちつづけて、その存在意義を高めることでしょう。炭素の固定にも長く役立つことでしょう。

おたがいに顔の見える協力関係を築きたいと考え、ワーキングツアーを当初から派遣してきました。その参加者は延べ 7500 人になり、なかには 22 回のリピーターがおり、10 回以上の人も 10 人に近いのです。

さまざまな分野の専門家が加わって、技術の改善や人材の育成に努めました。育苗や栽植にさいしての通気性の改善は、地元のベテラン技術者によって普及され、またたくまに広がりました。植えても植えても枯れることが多く、「全民植樹は苗捨て運動だ」と自嘲する幹部すらいたのに、いまでは多くのプロジェクトが成功し、風景が一変するまでになりました。

新しい一年の協力事業を継続すれ



立派に成長した采涼山のマツ



ば、私たちの活動は満 30 年を迎えることになります。これまでにえた成果と教訓をしっかり踏み固め、今後の前進を展望したいと思います。この記録もその一助となつてほしいと思います。

訂正とお詫び

前号のこの記事の写真説明で、「2020 年 12 月」とあるのはまちがいで、正しくは「2020 年 10 月」です。訂正してお詫びいたします。

GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く 「野の道」シリーズ⑭ 奈良公園で紅葉を楽しむ 中止しました

12月6日（土）に予定していた GEN 自然と親しむ会 前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑭ 奈良公園で紅葉を楽しむ は、新型コロナウイルス感染拡大にともない中止しました。

『緑の地球』を 電子版でお届けします

いつも GEN の会報『緑の地球』をお読みいただきありがとうございます。現在、ご希望の方に会報の電子データを e-mail にてお届けしています。

経費と資源の節約にご協力いただけるかた、また、印刷物がたまって困る、パソコン等で気軽に読みたいという方は、GEN 事務所までお名前と送付アドレスをご連絡ください。

次号より PDF ファイルで送付いたします。

情報ひろば
いっしょなかたち

第28回

ワン・ワールド・フェスティバル
オンラインウィーク

毎年恒例の西日本最大の国際協力・交流のイベント、今年はオンラインで開催します。

- 日時：プレウィーク：2月1日（月）～5日（金）、メインウィーク：2月6日（土）～21日（日）
- 場所：ワン・ワールド・フェスティバル公式ホームページ内特設サイト
- 内容：ワンフェス・チャンネル（オープニングからトークセッション、閉会式などを配信）、オンラインブース（国際交流・協力活動団体の活動紹介動画を配信）、オンラインステージ（民族舞踊、民族音楽などを配信）、ワンフェス動画コンテスト（SDGsや国際交流の取り組みなどの動画を配信）など
- 参加費：無料
- 主催・問合せ：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会事務局（〒546-0002 大阪市東住吉区杭全1-15-18 大西ビル3階（特活）関西国際交流団体協議会内 tel. 06-6777-1039 fax. 06-6777-2050 e-mail: onefes.contact-post@onefes.net URL https://onefes.net/）

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

2021年度（第19期）
自然環境市民大学
参加者募集

動植物や生態系の仕組み、環境保全の基礎について、総合的、体験的に学べる講座です。

- 時期：前期：2021年4月～9月の全11回（別にオプション講座2回）／後期：2021年9月～2022年2月の全11回（別にオプション講座1回）原則水曜日開催
- 定員：各15名程度
- 受講料：各期20,000円
- 講師：高田直俊氏（大阪市立大学名誉教授）佐藤治雄氏（大阪府立大学名誉教授）ほか。諸般の事情により変更になることがあります。
- 申込方法：前期、後期ともに2021年1月から受付。氏名、性別、年齢、住所、e-mail、電話番号、ファクス番号、携帯電話、受講コース、保全協会の会員か否かを記入して電話、ファクス、e-mail、HPの申し込みメールフォームからお申し込みください。
- 主催・申込み先：（公社）大阪自然環境保全協会 市民大学係（〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202号 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: shimin@

nature.or.jp URL: http://www.nature.or.jp

第24回
六甲奨学金基金のための
古本市

六甲奨学金基金の古本市のため、古本を集めています。ご自宅で眠っている古本がありましたらお送りください。

- 受付期間：2月1日～2月28日
- 送付方法：直接持参または送料送り主負担で送付【注意】破れや書き込みのあるものは不可。雑誌（ISBNコードのついていないもの）、文学全集、百科事典、CD/DVD/VHS/レコード、取扱説明書、学習参考書・問題集、古いガイドブック、図録、個人誌、個人出版の本は不可。お送りいただいた本はお返しできません。
- 送り先・問合せ先：（公財）神戸学生青年センター（〒657-0064 神戸市灘区山田町3-1-1 tel. 078-851-2760 fax. 078-821-5878 e-mail: info@ksyc.jp URL https://ksyc.jp/）
- ★六甲奨学金基金のための第24回古本市
- 2月20日（土）～3月21日（日）9時～22時まで開催。本の整理などのボランティアも募集しています。詳細は上記までお問い合わせください。